コンプライアンスのある行政運営を求める

河合 克平 議員

改めて認識して各事業に邁進していく

市　長

▲フットサル場の違法トイレ

フットサル場のトイレが違法だったことは、既に新聞報道もされている。これは建築確認申請が出ていなかったという内容だが、この違法な状態はいつから分かっていたのか。

教育部長 平成30年2月、都市計画課より指摘があったが、その時点では仮設トイレなので必要ないと誤認していた。最終的に適切でないと認識したのは、建築後の4月以降だ。

4月以降に分かって、なぜすぐに公表しなかったのか。

教育部長 適法にするための有効活用について検討していたからだ。

違法なものが、適法になることはない。すぐに公表していれば、今後の行政に対し、信頼が薄れることはなかったのでは。

教育部長 適法にする手法として、壁で囲って家屋状態にする、地中から出し下駄を履かせ仮設状態にするなど検討したが、さらに公金を投入することはできないと判断して撤去することにした。

緊急性があり、予算がないからと、指定管理業者に物品を購入してもらい、後から分割返済するという協定の仕方は非常に問題があるのでは。

教育部長 今回、建物として認定をされた段階で、当然市が購入設置すべきものであったという判断をした。今後は自治法並びに条例規則に沿った運用をしていく方針を固めている。

子ども医療費無料化を

子どもの医療費の完全無料化を求める2880名の署名の請願が提出された。

津島市は、財政上、非常に苦しい中でも、31年の4月から子どもの医療費の無料化を実施する。本市も窓口無料化にすれば、子どもの負担を減らし、職員の負担も減る。市長としての決断を求めたい。

市長 子どもの医療費の無料化は、他の市町村の現状も把握している。請願も出ているし、各議員の見解もある。将来を見据えたまちづくりには、投資的な経費も必要となってくる。そういった部分を全て加味して、判断していかなければならない。子ども医療費の無料化について、今後みなさんの意見を聞きながら、判断をしていかなければならない。

その他の質問

●佐屋地区の安心安全な駅前整備を。